

## ● 目次

- 1 世界で最も先進的な医学図書館をめざして
- 4 教育学の古典のいのち
  - 特別展「近代教育学の源流～コメニウスからフレーベルまで～」—
- 7 私の一冊
- 8 CD-ROM紹介
  - 11 Ask Us としょかんミニガイド
  - 12 本学教官寄贈著書紹介
  - 13 とびつくす
  - 14 掲示板


 世界で最も先進的な医学図書館をめざして

高田 彰

医学図書館は昭和53年に開館しているが、その設計の段階から日本で最も先進的な医学図書館をめざしていたものと推察される。例えばその特徴として、当時としては画期的な210平方メートルもの広い視聴覚室を設置すると共に、その一部にCAI(Computer Assisted Instruction)室を設けていることがあげられる。視聴覚教材の有効な利用とコンピュータを使用した医学教育を前提に医学図書館の機能を考慮していたわけであり、ここでは実際に同時に50人もの学生が視聴覚教材を用いたグループ学習を行ったり、当時としては珍しいCAI専用のコンピュータ・システムを用いた教育などが実施された(写真1)。CAI室には本学学術情報処理センターのコンピュータシステムとを結ぶコンピュータ専用通信回線が敷設され、情報処理技術を用いた医学教育について先進的な取り組みがなされ、その流れは現在にいたるまで途切れずに続いている。

## 医学図書館と教育用計算機システム

本学では創設時から、全学生に対して共通科目「情報処理」を必修カリキュラムとして課しており、そのための情報処理環境として教育用計算機システムが運用されている。あまり知られてはいなかったものの、

以前より教育用計算機システムの一部が小規模ながら、医学図書館の視聴覚室およびCAI室に設置され、学生教育に使用されてきた。情報システムの急激な発展に対応し、より良い情報環境を提供するため、平成7年に医学図書館視聴覚室を大幅に改造し、コンピュータルームとしての体裁が整備された。平成9年に教育用計算機システムが更新され、医学図書館のシステムは大幅に増強されて40名規模の実習も実施可能となった。医学図書館としては、新たな時代の幕開けを迎えたと考えられる。

医学図書館の教育用計算機システムは開館時間中は自由に利用することが可能であり、医学地区の学生に限らず全学的な学生によって活発に利用されている。医学図書館の開館時間は長期休暇期間を除き、平日午後10時まで、土・日・祭日は午後1時から午後6時までとなっており、教育用計算機システムを自主的学習に使用する学生に対する便宜が図られている。特に土・日・祭日は、学術情報処理センターおよび体芸棟の実習室が閉鎖されているため、利用者の多い時期にはほぼ満席の状態になる程である(写真2)。効果的な教育を行うためには、先進的な情報処理環境を継続的に整備し、その情報処理環境が学生の自主的な勉学におい

でも有効に利用されることが必要であるが、医学図書館はそのための理想的な場を現在提供しているといえよう。

国立大学では、情報システム関係のレンタル予算は、その額と配分先が限定されており、一般的には情報システムは中央集権的に配置され管理されてきた。この点は、情報システムの中心が大型汎用計算機システムから分散型オープンシステムに移行した現在でも必ずしも改善されていないことが多い。しかし、本学では、従来より情報システム資源を分散して配置することに努力しており、教育用計算機システムの一部を医学図書館（ならびに中央図書館）に配置することも、そのひとつの方策として実施されてきたという経緯がある。現在大学全体の情報化をどう進めるかという大きな課題があり、これにどう取り組むかは大学全体のパフォーマンスに大きな影響を与える事柄であると考えられる。医学図書館に設置された教育用計算機システムの運用は、関係する複数の組織がそれぞれの資源（計算機システムのレンタル費用、人的資源、場所、設備等）を提供しあいながら、情報システムの円滑な運用と利用者へのサービス向上を図ったという点で、今後の方向性を示したものとして評価されるべきものであると考えられる。

### 医学図書館と電子図書館

本学における情報化推進という点では、本年1月に電子図書館システムの実運用が開始されたことは記憶に新しい。他大学に先行して本学に対して電子図書館システム構築のためのレンタル経費が認められ、さらに電子図書館システムに登録する資料の電子化作業のための予算が継続的に認められたことは、この数年間にわたる図書館の努力が外部から高く評価されたことを示している。この電子図書館プロジェクトにおいても、医学図書館は重要な役割を果たしてきた。

本学における電子図書館への取り組みの発端は、昭和61年に附属図書館運営委員会の下にニューメディア検討ワーキンググループを組織し、光ディスク装置を含む「ニューメディア」の導入による資料のコンパクト化を検討したことによる。中央図書館における資料保管スペースの狭隘化が深刻化する状況の下での検

討であった。電子図書館への取り組みが本格化するのには、故阿南功一元学長の肝入りで平成2年に評議会の下に図書館将来計画委員会が組織され、中央図書館の増築と共に電子図書館への取り組みの方向性が示されてからである。平成3年より図書館電子化専門委員会が組織され、2期6年間にわたる電子図書館構築へのプロジェクトが開始された。なお、中央図書館増築への努力も平行して行われ、幸いにも平成7年には増築が実現した。この結果、電子図書館プロジェクトは図書館の狭隘化と資料のコンパクト化という束縛から開放され、より純粹に電子化された情報の流通と活用、ならびに情報の発信という視点から検討を行うことが可能となった事は幸いであった。

電子図書館への最初の取り組みは電子化された学術情報の利用という点にあり、医学図書館を中心に検討と環境の整備が進められた。どうして医学図書館なのかという点については、平成3年当時はCD-ROMによる電子出版が立ち上がりはじめていた頃でもあり、またCD-ROMサーバをネットワークに接続してサービスを行う仕組みが普及し始めた頃でもあったが、このような環境で利用できる情報ソースが医学分野で多かったことがあげられる。また、医学図書館の利用者にもこのようなサービスへの高い要求があり、特に文献検索サービスに関しては医学図書館は本学の他の図書館と比較しても際立って高い要求が従来より認められていたからである。実際に医学図書館に設置されたCD-ROMサーバの利用頻度は極めて高く、サーバの更新や端末の増設を行いサービスの向上を図ったところ、医学図書館を利用する研究者の研究環境を大きく改善することができた。この成功をもって、電子図書館への動きが加速したことは間違いないものと思われる。

蛇足ではあるが、現在中央図書館および医学図書館で提供されている医学文献データベースの購入費用は医学部門の経費で賄われている。これも関係する複数の組織がそれぞれ提供できる資源を出し合い、組織としての機能を高めている例であると考えられる。今後より多くの電子化された情報を購入する必要がでてくるものと思われるが、その際のひとつの方向性を示していると考えられる。電子図書館については、現在は情報発信という観点からその運用が行われており、今



後の更なる発展が期待されているところである。

### 医学図書館と地域社会

医学地区には医学図書館を中心にいくつかの教育・研究組織等が存在するが、なかでも附属病院は医学図書館の果たすべき機能に大きな影響を与えていると考えられる。平成10年度筑波大学概要によれば、平成9年度筑波大学国立学校特別会計の歳入は218億4千万円であったが、附属病院収入は119億2千万円と全体の約54.6%を占め、授業料及び入学検定料の73億8千万円(33.8%)を大きく上回っている。平成10年度筑波大学附属病院概要によれば、附属病院の1日平均外来患者数は約1,200名、1日平均入院患者数は約700名であり、医師、薬剤師、看護婦、臨床放射線技師、臨床検査技師等の医療専門職ならびに事務職員等、合計1,000名以上もの教職員がまさに24時間体制で活動を行っている。これらの教職員は医学図書館の利用者であり、ここで得られた情報が直接的に附属病院における医療活動に利用される。このことによって、医学図書館の果たす社会的な役割の大きさが推測可能であろうし、医学図書館の24時間開館への切実な要望があることも理解できるものと思われる。本学を巣立ち周辺地域において医療の最前線で活躍している多くの医療従事者も、医学図書館を利用していることも見逃せない事実であり、今後の医学図書館の機能を考えていくうえでは、地域社会との連携を無視できないものと思われる。

医学図書館は歴代の図書館職員と医学地区教職員の努力によって発展を続けてきた。開学当初に日本で最も先進的な医学図書館をめざして計画が練られたとするならば、開学25周年を迎えた現在は、世界で最も先進的な医学図書館をめざして新たな計画を策定すべき時期なのではなかろうかと考える次第である。

(たかだ・あきら 臨床医学系助教授)



(写真1) CAI室に設置された医学CAIシステム

昭和55年頃

日本語の文章と画像はスライドプロジェクターを、音声はカセットテープレコーダーを、マイクロコンピュータにより制御しながら提示し、インタラクティブなマルチメディア環境の下で、患者の診断や治療のシミュレーションを行うことができた。これとは別に、学術情報処理センターの大型計算機を用いたシミュレーションプログラムも提供されていた。



(写真2) 休日も満員状態の視聴覚室

平成10年6月のある日曜日

写真を撮影する直前までは、空席待ちの行列ができていたと学生が教えてくれた。



## 教育学の古典のいのち

### —特別展「近代教育学の源流～コメニウスからフレーベルまで～」—

山内 規嗣

教育学系・附属図書館共催特別展『近代教育学の源流～コメニウスからフレーベルまで～』が、筑波大学開学25周年記念委員会の後援により、9月7日から10月16日まで、中央図書館貴重書展示室にて開催されている。展示には、広島大学のご厚意で出展されるフレーベル(F.Fröbel, 1762-1852)の『人間の教育』初版(1826)のほか、附属図書館貴重書庫に所蔵されている教育学の多くの貴重な古典とともに、写真・図版のパネルが多数用意されており、17世紀から19世紀までのヨーロッパの教育の歩みが、主要な教育思想家を手掛かりに、順を追って説明されている。また、9月11日には、午後4時より、中央図書館集会室において、小笠原道雄教授(広島大学副学長)による記念講演「初版本の魅力」が開催され、学内・学外から多数の聴講者が集まった。

この特別展に出展されている多くの貴重書のオリジナル、とくに初版本のそれは、教育史の研究にたずさわっている私のような者にとって、限りない価値をもっている。本の内容はもちろんのこと、すでにその装丁からして、古びて角のとれた表紙、裏の文字が透け出ている薄茶色の頁、その脆く壊れそうな紙の手触り、こういったものに、どうしても非常な魅力を感じてしまう。しかし、それはたんなる古書趣味というものではなく、むしろ、オリジナルということ、初版本ということ自体がもつ固有の価値がなせるわざに思えてならない。言うまでもないことだが、思想家が本を著すということは、自らの思想を自らの言葉で世に問うということにはほかならず、著者がとらえたある思想的課題に向き合う姿勢そのものである。その態度表明、対決の最初の宣言が初版本であり、それはその後の様々な出来事の記憶を纏わせて、いま私たちの目の前に置かれている。

特別展の美しいポスターには、その中ほどに一冊の開かれた書物が示されている。これが、あのルソー(J.-J.Rousseau, 1712-78)の『エミール』の初版本(1762)である。『エミール』の初版本には、パリ版とオランダ版があるが、今回展示される本学図書館所蔵のものは

そのうちのオランダ版である。1760年にリュクサンブール元帥のモンモランシー邸で完成された『エミール』の原稿は、すぐさま国内で刊行されはしなかった。18世紀中葉当時のアンシャンレジューム期のフランスでは、書物の検閲が行われており、『百科全書』(1751-80)を編集したディドロ(D.Diderot, 1713-84)やダランベール(d'Alembert, 1717-83)ら百科全書派に代表される啓蒙主義者たちの言論は大きく制限されていた。彼らに理解のある司法官マルゼルブが検閲を監督しており、『エミール』の出版に好意的な反応を示していたとはいえ、出版に危惧を抱いたルソーは、フランス国外での出版を当初主張していた。その後の紆余曲折の結果、『エミール』はパリとオランダで同じ1762年に出版されることとなったが、ルソーの不安は残念ながらも的中した。出版後、パリの高等法院は、反宗教・反王権の罪により、『エミール』の焚書と著者ルソーの逮捕を命じた。やむなくルソーは、以後10年近くにおよぶ放浪生活を余儀なくされたのである。パリ版がこのような運命をたどる一方で、オランダ版は、ここでも出版禁止となる前に、各地に広がっていった。しかし、出版された1762年のうちにも、すでに多くの偽版が出現しており、現在ではもはや本物の初版かどうかは慎重な確認作業が必要となっている。今回展示されるオランダ版の『エミール』は、このような苦難の歴史をまさしく生き残ってきたオリジナルなのである。その内容については、電子図書館のページで鮮明な画像を見ることができる。

こうして一度世に示された書物はそのままにとどまることなく、著者の手を離れてもなお、翻訳や翻案といったかたちで別のいのちを吹き込まれる。現ロシア領カリーニングラードとなっているかつてのケーニヒスベルクにいた哲学者カントが、『エミール』を讀んでいて、日課の散歩に間に合わなかったというエピソードはあまりにも有名だが、『エミール』出版後、その流布とともに、イギリスやドイツではただちに翻訳が現れた。そのさい、『エミール』出版から30年近く降るものの、ドイツ汎愛派のカンペ(J.H.Campe, 1746-1818)

が編集した『教育総点検』(1785-92)全16巻に収められたルソーの『エミール』(第12-14巻)の全訳を忘れるわけにはいかない。18世紀のドイツ啓蒙期は、「教育の世紀」とも呼ばれるほどの活発な教育的活動が展開されたが、その中心の一つがバゼドゥ(J.B. Basedow, 1724-90)を領袖とする汎愛派であり、『教育総点検』は彼らの教育理論を基礎づける一大計画であった。全訳に付された詳細な注解は、英仏の教育思想、とくに『エミール』のドイツへの受容のあり方をみるうえできわめて重要な史料である。そして、それとともに、フランス革命前に出版され焚書とされた『エミール』の全訳を、彼らがまさにフランス革命の最中(1789-90)にドイツで出版したということの意味を、問うてみる必要があるだろう。なお、この『教育総点検』第15巻には、ロック(J. Locke, 1632-1704)の『教育論(1693)』の全訳も収められているが、この特別展では、『教育論』の初版と第3版も並置して展示されている。第3版では、宗教教育や徳育に関する叙述が初版よりもいっそう詳細に書き加えられている。ここで私たちは、ロック自身の問題意識の変化を看取するとともに、初版本のみでは分からない書物の可塑的な生命力を感じとることができる。

これらの古典のもつ意味は、しかし、普遍性を求める教育の知の広がり、その思想の歴史の中であらためて問い直される。その広がり、何よりも、この特別展の出発点にあげられたボヘミアの教授学者コメニウス(J.A. Comenius, 1592-1670)にこそ、具身されている。30年戦争の惨禍にあつて神の試練と人間の使命を見いだしたコメニウスは、教育に現生と来生の期待を込める一方で、ヨーロッパ各地を転々とした。異国で没した彼の『世界図絵』(1658)は各国語に翻訳され、また『大教授学』(1657)は、ヒューマニズムの世界観と人間論に基づく体系的教授方法と学校のシステムを先駆的に論じたものとして、近代教育学の成立にとって重要な始源的位置を占めている。

この「学」(知の体系)としての近代教育学の成立は、はるか後代の19世紀初頭、ヘルバルト(J.F. Herbart, 1776-1841)の『一般教育学』(1806)を待たねばならないが、その直前である18世紀末のスイスで教育活動に専心したペスタロッチー(J.H. Pestalozzi, 1746-1827)

にとっては、教育の対象は、もはや『エミール』に示された金持ちの孤児ではない。社会問題に対して鋭い批判精神を向けた彼は、貧しい孤児を、社会変化の大きなうねりのただなかにある民衆を見据え、その教育実践に裏付けられた思索を『ゲルトルート教授法』(1801)に託した。彼の思想を受け継いだフレーベルは、幼稚園(キンダーガートン)を設立し、独自の人間論に基づいて『人間の教育』を公刊した。彼らの思想は、身分や階級を越えた「子ども」そのものを探究する一方で、フィヒテ(J.G. Fichte, 1762-1814)が『ドイツ国民に告ぐ』(1808)の中でペスタロッチー主義を称揚したように、当時のいまだ統合されざるドイツの国民教育のうえにも位置づけられていった。コメニウスを出発点とする教育への探究は、こうして「学」としての近代教育学と、国民教育論というかたちで終着点を見いだすこととなった。

これらの教育思想家たちの理論や実践は、確かに、キリスト教をはじめとする特殊ヨーロッパ的背景を有してはいる。しかし、その影響は、遠く離れたわが国にも明治期よりたえず及んでいる。本学の源流である師範学校の開学(1872(明治5)年)以来、日本の教育学、教師教育や学校制度は、他の諸学と同様、ヨーロッパのそれを基礎にして始められた。事物教授を旨とするペスタロッチー主義の導入、それに間をおかず続いたヘルバルト主義の(授業のシステム化とも言うべき)五段階教授法の流行、そして学制による国民教育制度の確立。これらは、その根を近代教育学にもちながら、わが国の教育に強い影響を与えた。それはまた、「和魂洋才」という言葉に示されるように、わが国の伝統的思想のうえに欧米の教育制度や教育方法を結びつけようとする試みでもあった。しかし、その試みが実を結ぶためには、近代教育学を支える思想そのものとの緊張ある対決が必要であったはずであり、また今日その必要性が自戒の念とともにいまいっそう強く感じられてならない。教育学の古典へ新たないのちを吹き込むこと、このことを、今日の教育を考えるにさいしても、決して忘れてはならないだろうし、河の行く先を見定めるには、源流の高みから見渡すことも、ときには必要かもしれない。現在の教育に関心をお持ちの方々にも、この特別展に、ぜひ一蹶足をお運びいただき、教



育学の源流である古典のいのちを、感じ取っていただき  
きたいと心より思う。

(やまうち・のりつぐ 教育学系助手)



特別展のポスター

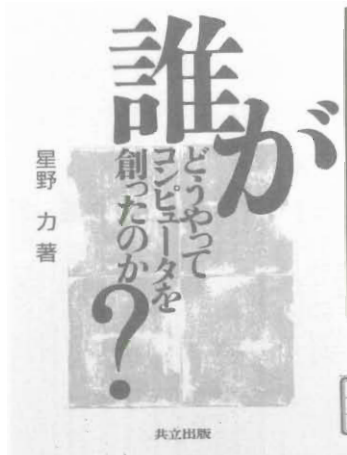


展示室の見学者たち

## 私の一冊

星野 力著「誰がどうやってコンピュータを創ったのか？」（共立出版 1995）

星野 力



ある日同級生から、ノイマンがコンピュータを構想した経緯を学会誌へ書いて欲しいという電話がかかってきた。こうしてビクトリア朝のパベッジとエイダから、第2次世界大戦直後のノイマンやウィルクスまで100年間のコンピュータ開発史への旅が始まった。旅といっても物理的な旅は、第3学群の研究室から中央図書館の書庫までの数100メートルの旅をしていただけである。筑波大学の図書館には、コンピュータ史の豊富な図書が揃っていた。それら書籍や雑誌を読みあさり、コンピュータの専門知識に照らして推理するだけの、いわば“安楽椅子の探偵”を決め込んで書いたこの本が、日本における“コンピュータ開発史の決定版”という高い評価を受けているらしい。

ひどいフィクションがコンピュータの歴史にはまかり通っていることに驚かされた。これは、原典にあたらずに、孫引き、ひ孫引きを繰り返しているうちに事実になってしまったのだろう。フィクションの再生産を止めるには、私も自らを律しないといけない。そこで、文献を客観的に引用した箇所と、私の個人的推量を書いた部分とを厳密に区別するため、わざわざ活字を2種類使った。これは、理系の専門家からは高く評価されたが、文系でもこれは評価されるのだろうか？

計算機械という技術的パラダイムはどのように出現

したのか？それが、この本を書いていたときの最大の関心事だった。コンピュータのパラダイムは、しばしば“逆接”によって出現していることは、私にとって大発見だった。逆接とは私の造語で、図らずも何々になってしまった、ということ。プロテスタンティズムが図らずも資本主義出現のきっかけとなったように。それで、ロケットを預言した人はいても、コンピュータを預言した人はいなかったことの説明が付く。歴史研究の面白さと奥深さが体験できた、想い出深い本である。〔中央図：548.2-H92〕

（ほしの・つとむ 構造工学系教授）

ジャクリヌ・ド・ロミイ著／細井敦子、秋山学訳「ギリシア文学概説」（法政大学出版局 1998）

秋山 学



法政大学出版局の「叢書ユニベルシタス」から、5月に細井敦子氏（成蹊大学）との共訳で、ジャクリヌ・ド・ロミイ著『ギリシア文学概説』を上梓する運びとなった。ホメーロスからローマ帝国期のキリスト教文学までを扱う非常に広範な概説書で、原著者はフランス学士院会員、欧米古典学界の重鎮である。細井氏が前半部の古典古代期を担当し、私はプラトン以降のギリシア哲学とヘレニズム文学、それにローマ期のギリシア文学を受け持った。原著の初版は1980年、以来各国語に訳されるなど定評のある文学史である。しかも単なる作品紹介に留まらず、著者が原作を読破し

独自の史観に基づいて記述を展開しているため、文化史としても内容は濃い。古典文学史の枠を古代末期の教父時代までとするあたり、英米圏のものとは若干趣を異にし、大陸系の古代文化史観を提示している。訳業とは言え、否それも文学史の概説書だけに、原古典作品の内容と著者の理解を踏まえていることが前提とされるほか、研究史の把握のためにも蔵書の豊かな環境が与えられていなければ作業はおぼつかない。前任校から筑波大へ異動する間に急いで完成させた仕事であったが、最終的な文献列挙などの段階で、開館時間が長く豊富な蔵書を誇る本学図書館からは大いに恩恵

を被った。おかげで巻末の邦訳／邦語研究書の文献目録は、かなり網羅的なものになったのではないかとひそかに自負している。

巻末の著者紹介にも挙げられているが、原著者は戦中・戦後における古典学教育の衰退に抗し、その必要性を訴え続けてきた。本学にも、旧教育大以来の西洋古典学の学統と研究課程、それに豊富な蔵書が整っている。訳書ではあるが、わが国の大学教育における古典学の必要性を訴える一書ともなればと祈念している。〔中央図：991-R66〕

(あきやま・まなぶ 文芸・言語学系講師)



## CD-ROM 紹介

研究に必要な論文やデータを手に入れるには、どうすればよいでしょうか？

参考文献をチェックする、抄録索引誌を調べるなどいろいろな方法がありますが、CD-ROMを使うと、大量のデータから必要な情報を効率よく探すことができ、非常に便利です。

ここでは、図書館で利用できる主なCD-ROMをご紹介します。

今回は利用場所別と分野別の2種類の表を作成しました。ぜひご活用ください。

なお図書館には、このほかにもたくさんのCD-ROMがあります。

電子資料リストのページ (<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/reference/cdrom-list.html>)でご紹介していますので、参考にしてください。

使い方や利用できる端末の場所など、わからないことがありましたら、各図書館のレファレンス・デスクにお尋ねください。

また、特に利用の多いCD-ROMについては「文献の探し方オリエンテーション」で使い方の説明を行っていますので、ぜひご参加ください。詳しい日程等は <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/reference/orientation.html>、つくばスチューデントズ、速報つくばをご覧ください。



## CD-ROM 紹介

(利用場所別)

図書館のホームページ(<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>)から検索できるもの

名	前	収録期間
Current Contents(欧米語全分野)		1995-
Medline(医学-欧米語)		1966-
Biological Abstracts(生物学) * 筑波地区のみ		1990-
Biological Abstracts/RRM(生物学のレポート・会議録) * 筑波地区のみ		1989-

筑波地区の各図書館および学内LANに接続された研究室の端末から検索できるもの

New York Times(新聞)		1990-
Times & Sunday Times(新聞)		1990-
Philosopher's Index(哲学)		1940-
Cross-Cultural(民俗学・文化人類学)		1989-1993
PAIS(社会科学)		1972-
Sociofile(社会学)		1974-
CA on CD(化学)		1998-
NTIS(アメリカ政府機関が作成したレポート類)		1983-

各図書館の端末で検索できるもの

雑誌記事索引(国立国会図書館所蔵国内雑誌)		1985-
大宅壮一文庫雑誌記事索引(大衆誌・一般誌)		1992-
医学中央雑誌(医学-日本語) * 筑波地区のみ		1987-

中央図書館の端末で検索できるもの

CD-HIASK(朝日新聞)		1985-
戦後50年朝日新聞見出しデータベース		1945-1994
毎日新聞		1991-
日本経済新聞		1992-
MLA International Bibliography(言語学・民俗学)		1963-
法律判例文献情報		1982-
科学技術文献速報(JICST所蔵雑誌の文献情報)		1995-
Powder Diffraction Data File(X線粉末解析パターンデータのデータ)		
Journal Citation Reports(雑誌のImpact Factor等)		1994-
理科年表		大正14年-

体芸図書館の端末で検索できるもの

Art Index(芸術)		1984-
世界美術辞典(新潮社 世界美術辞典の全文)		
SPORT Discus(スポーツ・健康・レクリエーション)		1975- (図書は1949-)
Medline(医学-欧米語)		1966-
ADAM(解剖学画像データベース)		
理科年表		大正14年-

医学図書館の端末で検索できるもの

Current Contents.. Clinical Medicine(医学)		最新約半年分
Current Contents.. Life Science(医学・生物科学)		最新約半年分
CINAHL(看護学)		1983-
Medline(医学-欧米語)		1966-
TOXLINE(毒性)		1981-
ADONIS(医学・生物科学の雑誌約650種の全文)		1992-1996
今日の診療(「今日の診療指針」等6種の図書の全文)		
Pediatrics(小児科学「Pediatrics」の全文)		1985-1991
Medical Yearbooks(医学分野の各種年鑑の全文)		

大塚図書館の端末で検索できるもの(レファレンス・デスクに申し出てください)

CD-HIASK(朝日新聞)		1989-1993
法律判例文献情報		1982-
CD-JOINT(経済学・産業)		1981-1995
CD-MAGAZINE(経済学・産業)		1991-1992
有価証券報告書総覧		1991.11-1992.10
今日の診療(「今日の診療指針」等6種の図書の全文)		

## (分野別)

名前	収録期間	利用場所					
		Internet	研究室	中央	体芸	医学	大塚
<b>新聞の全文情報</b>							
CD-HIASK(朝日新聞)	1985- (大塚は1989-1993)			○			○
戦後50年朝日新聞見出しデータベース	1945-1994			○			
毎日新聞	1991-			○			
日本経済新聞	1992-			○			
New York Times	1990-		○	○	○	○	
Times & Sunday Times	1990-		○	○	○	○	
<b>文献情報</b>							
<b>全分野</b>							
Current Contents(欧米語全分野)	1995-	○					
雑誌記事索引(国立国会図書館所蔵国内雑誌)	1985-			○	○	○	○
<b>人文学</b>							
Philosopher's Index(哲学)	1940-		○	○	○	○	
MLA International Bibliography(言語学・民俗学)	1963-			○			
Art Index(芸術)	1984-				○		
世界美術辞典(新潮社 世界美術辞典の全文)					○		
大宅壮一文庫雑誌記事索引(大衆誌・一般誌)	1992-			○	○	○	○
<b>社会科学</b>							
Cross-Cultural(民俗学・文化人類学)	1989-1993		○	○	○	○	
PAIS(社会科学)	1972-		○	○	○	○	
Sociofile(社会学)	1974-		○	○	○	○	
法律判例文献情報	1982-			○			○
有価証券報告書総覧	1991.11-1992.10						○
CD-JOINT(経済学・産業)	1981-1995						○
CD-MAGAZINE(経済学・産業)	1991-1992						○
<b>自然科学</b>							
科学技術文献速報(JICST所蔵雑誌の文献情報)	1995-			○			
Biological Abstracts(生物学)	1990-	○					
Biological Abstracts/RRM(生物学のレポート・会議録)	1989-	○					
CA on CD(化学)	1998-		○	○	○	○	
NTIS(アメリカ政府機関が作成したレポート類)	1983-		○	○	○	○	
<b>スポーツ</b>							
SPORT Discus(スポーツ・健康・レクリエーション)	1975- (図書は1949-)				○		
<b>医学</b>							
Medline(医学-欧米語)	1966-	○			○	○	
医学中央雑誌(医学-日本語)	1987-			○	○	○	
Current Contents. Clinical Medicine(医学)	最新約半年分					○	
Current Contents. Life Science(医学・生物科学)	最新約半年分					○	
CINAHL(看護学)	1983-					○	
TOXLINE(毒性)	1981-					○	
今日の診療(「今日の診療指針」等6種の図書の全文)						○	○
Pediatrics(小児科学「Pediatrics」の全文)	1985-1991					○	
Medical Yearbooks(医学分野の各種年鑑の全文)						○	
ADAM(解剖学画像データベース)					○		
ADONIS(医学・生物科学の雑誌約650種の全文)	1992-1996					○	
<b>データ集</b>							
Powder Diffraction Data File (X線粉末解析パターンのデータ)				○			
Journal Citation Reports(雑誌のImpact Factor等)	1994-			○			
理科年表	大正14年-			○	○		



# ASK US としょかんミニガイド

## 和装本の探し方

Q：古い本を調べようと思ってOPACで検索していたら、こんな本を見つけたので、書架を見に行ってみました。でも、請求記号の示す場所にはみつかりません。一体どこにあるのでしょうか？

操作方法ヘルプ / 検索へ / 直前の検索結果へ / トップページへ

### 図書目録情報

書誌

- 書名 俳諧七部集：[1] (ハイカイ シチブシユウ)
- 出版 皇都(京都)：野田治兵衛：1795
- 刊年 1795
- 形態 16.16丁：23cm
- 内容注記 春の日、冬の日、ひさこ
- 注記 寛政7年刊  
臨帖生紙版  
和装本  
[1]～[7]の7冊共録入
- 本文言語 日本語 (jpn)
- 分類 CAL 911.32  
NDC 911.32

所蔵

巻号	所在	請求記号	資料ID	資料タイプ	状況(返却予定日)	コレクション
[1][1]	中央	911.32-H15	10087000687	和装古書		

操作方法ヘルプ / 検索へ / 直前の検索結果へ / トップページへ

A：検索結果の資料タイプを見て下さい。「和装古書」になっていますね。

筑波大学附属図書館では、線装本・卷子本等、装丁が和漢様のもので、主として江戸時代に出版されたものを『和装古書』と呼んでいます。

和装古書は、中央図書館では和装本書庫（新館1階）、体芸図書館では3階にまとめて配架しています。（※装丁が和漢様のもので、近年出版されたものは一般書架に配架されています）



線装本

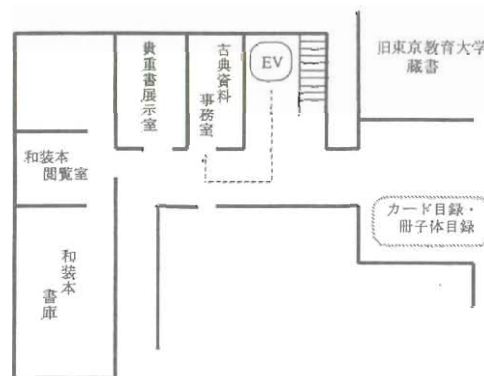


卷子本

Q：これは中央図書館のもんですね。ぜひ見たいのですが、和装本書庫はどこにありますか？

A：和装本書庫は新館1階にあります。事前の予約は必要ありませんが、必ず古典資料事務室で受付をしてください。

新館のエレベータを1階で降りてすぐ右手に古典資料事務室があります。



Q：利用時間を教えてください。

A：平日の午前9時から午後5時までです（12時～13時は閉室）。古典資料事務室には図書館員がいますので、何かわからないことがあったら聞いてみてください。

受付の際は、和装本閲覧票に氏名・所属・資料名・入庫時刻等を記入し、筆記用具以外の荷物をカウンター脇のロッカーに預けて下さい。

受付をすませたら、ロッカーの鍵を受け取り、和装本閲覧室へ移動します。

和装古書は、和装本書庫から出してきて、和装本閲覧室で見るになっています。

和装本閲覧票		利用日							
フリガナ		種別	( ) 教職員	( ) 院 生					
氏 名		所 属	( ) 学 生	( ) その他					
資料名									
入庫時刻	時	分	備 考						
退庫時刻	時	分							
受付者	ロッカーNo.		※太線内のみ記入してください 筑波大学附属図書館						



Q：和装本書庫に入っている本は、全て OPAC で検索可能なのですか？

A：和装本書庫に収められている約 12 万冊のうち、筑波大学附属図書館で受け入れたものは OPAC で検索できます（約 6,000 冊）が、東京教育大学以前から所蔵していた和装古書の殆んどは、まだ OPAC で検索できません。

ですから、探している本のタイトルや分野がわかっているなら、OPAC だけでなく、カード目録や冊子体の目録も調べてみて下さい。

この目録は中央図書館本館 1 階にあります。

冊子体目録・カード目録は、洋書・和漢書の別になっていますが、和装本を調べるには和漢書の方を使います。

冊子体目録は、『東京文理科大学附属図書館和漢書分類目録』（上巻・下巻・索引）といい、明治 5 年（1872 年）～昭和 8 年（1933 年）の東京文理科大学時代の蔵書目録です。この目録の分類法は、東京教育大学図書分類表による旧分類になります。

カード目録は『東京教育大学旧蔵書』の日録で、書名目録（和書のみ）・著者名目録・分類目録があります。収録している期間は、昭和 8 年（1933 年）～昭和 48 年（1973 年）です。この目録も、分類は旧分

類になります。

冊子体目録・カード目録で所蔵が見つかったら、必ず請求記号（例：ル 120 - 154）をメモしておいてください。

見つけた本が和装本書庫にあるかどうかは、この目録からはわかりません。メモを持って古典資料事務室へ行き、図書館員に相談してください。

和装本書庫に無い場合は、中央図書館本館 1 階・中 2 階の旧分類図書コーナーを見てください。

Q：体芸図書館にある和装古書はどうですか？

A：体芸図書館では和装古書は 3 階にあります。

3 階の和装本は OPAC で検索することができます。和装古書が配架された棚には鍵がかけられています。利用したいときは、体芸図書館 2 階のメインカウンターへ申し出て、鍵を借りてください。

最後に：お願い

和装古書を利用するときには、本を傷めないよう、次のことを守ってください。

- ①利用前に手を洗ってください。
- ②メモを取るときは、鉛筆を使用してください。
- ③広げた本を重ねないようにしてください。
- ④本に糊付きの付箋紙を貼らないでください。

## 本学教官寄贈著書紹介

平成 10 年 4 月～7 月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介します。（敬称略、寄贈者五十音順、所属は平成 10 年度のものです。）

秋山 学（文芸・言語学系）ギリシア文学概説。法政大学出版局、1998（叢書・ユニベルタス 601）[翻訳書]

鶴沢 隆（芸術学系）ジュゼッペ・テラーニ：時代（ファシズム）を駆けぬけた建築。INAX 出版、1998（INAX 叢書 1）

大塚和弘（物質工学系）Shape memory materials。Cambridge University Press、1998

五十殿利治（芸術学系）大正期新興美術運動の研究。

改訂版。スカイドア、1998

加藤浩三（社会科学系）通商国家の開発協力政策。木鐸社、1998

加藤盛夫（農林学系）エコロジー小事典。講談社、1998（ブルーボックス）

桜井茂男（心理学系）たのしく学べる乳幼児の心理。福村出版、1997

清水 諭（体育科学系）甲子園野球のアルケオロジー。新評論、1998。

関岡康雄（体育科学系）スポーツタレントの科学的選抜。道和書院、1998

高木英明（社会工学系）Performance and management of complex communication networks。Chapman & Hall、1998

竹村牧男(哲学・思想学系)良寛『法華讃』評釈. 春秋社, 1997

田島 裕(社会科学系)確定性の世界. 信山社出版, 1995 [翻訳書]; 法律情報の検索と論文の書き方. 丸善, 1998; 比較法の方法. 信山社出版, 1998 (著作集別巻1)

徳田克巳(心身障害学系)弱視に関する認識とイメージ変容. チャイルドセンター, 1998

徳丸克巳(名誉教授)物質の科学・有機化合物. 放送大学教育振興会, 1998 (放送大学教材)

富永 昭(物理学系)熱音響工学の基礎. 内田老鶴圃, 1998

西澤龍生(名誉教授)ミューズ: 舞踏と神話. 論創社, 1998 [翻訳書]

原田 泰(芸術学系)WWWからはじめる情報デザイン. 画像情報教育振興協会, 1998

平山朝治(社会科学系)社会科学を超えて. 啓明社,

1984 (啓明選書4); ホモ・エコノミクスの解体. 啓明社, 1984 (啓明選書5)

藤田晃之(教育学系)キャリア開発教育制度研究序説. 教育開発研究所, 1997

星野 力(構造工学系)進化論は計算しないとわからない. 共立出版, 1998; 人工生命の夢と悩み. 裳華房, 1994 (ポピュラーサイエンス); 誰がどうやってコンピュータを創ったのか? 共立出版, 1995

村山祐司(地球科学系)地域分析: 地域の見方・読み方・調べ方. 増補改訂. 古今書院, 1998

門田安弘(社会工学系)Toyota production system. 3rd ed. Engineering & Management Press, c1998

鷺谷いづみ(生物科学系)サクラソウの目. 地人書館, 1998

Charles Edward Covell (社会科学系) Kant and the law of peace. St. Martin's Press, 1998



〔全国〕

#### 第45回国立大学図書館協議会総会

6月24日(水)～25日(木) 鹿児島市民文化ホールにおいて鹿児島大学の当番で開催されました。

〔報告事項〕○国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会報告○国立大学図書館協議会海外派遣者選考委員会報告○国立大学図書館公開事業実施委員会報告○著作権特別委員会報告○図書館情報システム特別委員会報告○身体障害者サービスに関する調査研究班報告○各地区協議会報告○国立大学協会第7常置委員会報告○国立大学図書館協議会と学術情報センターとの業務連絡会報告○国公立大学図書館協力委員会報告○日本図書館協会関連報告, ほか

〔協議事項〕○理事選出について○監事選出について○平成9年度決算報告・同監査報告について○平成9年度岸本英夫博士記念基金収支決算報告・同監査報告について○平成9年度国立大学図書館公開事業決算報告○政策研究大学院大学の加入について○平成10年度事業計画(案)について○平成10年度予算(案)について○大学図書館による文献複写に関わる著作権処理に関する対処方針について○国立大学図書館協議会海外派遣事業関連規程について○「中小規模図書館」の課題に対する対応策について○文部大臣への要望書について, ほか

〔学内〕

第 211 回附属図書館運営委員会（6 月開催）

〔審議事項〕 ○平成 9 年度筑波大学年次報告書について○「筑波大学附属図書館規則第 6 条第 2 号及び第 3 号に定める利用者の範囲について」及び「放送大学茨城地域学習センターの学生に対する筑波大学附属図書

館の利用に関する実施要項」の一部改正について、ほか

〔報告事項〕 ○教育図書委員会（第 27 回）について○附属図書館ボランティア記念式・講演会について○平成 10 年度国立大学附属図書館事務部課長会議について、ほか

# 掲示板

視聴覚メディア室およびグループ視聴室の利用方法の変更について

—中央図書館視聴覚メディア室

視聴覚資料・機器の利用について、下記のとおり変更しました。従来より一層使いやすい環境を整備しましたので、是非ご利用ください。

○視聴覚メディア室

レーザーディスク同様、ビデオやコンパクトディスク等も直接書架から手に取って選ぶことができるようになりました。

○グループ視聴室

室内設置の視聴覚機器の利用制限がなくなりました。他のセミナー室の機器と同様に利用できます。

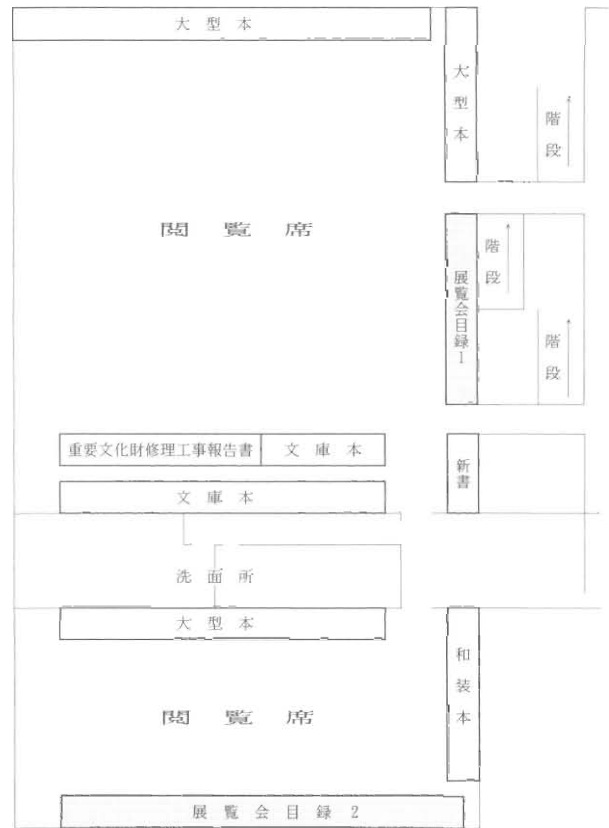
詳しくは視聴覚メディア室カウンターまでお問い合わせください。(内線 2365)

体育・芸術図書館からのお知らせ

展覧会目録の配架場所が変わりました。新しい配架は右図のとおりです。

詳しくは、体育・芸術図書館メインカウンターまでお問い合わせください。(内線 2878)

3 階



1: 総記から彫刻 2: 絵画から文学

# 編集室だより

「私の一冊」のコーナーをもうけました。このコーナーは、図書を寄贈してくださった方々の執筆した本や、翻訳した本などを紹介していただく広場としたい

と考えております。これを機会に、今後ますます、本に親しんでいただければと念願しています。